菊池国際交流映画祭

六千五百人が感涙

第10回菊池国際交流映画祭は10月11日・12日の2日間、菊池市文化会館などで開催され、全国から延べ約6500人の観客が訪れました。今回はスーパーアドバイザーとして熊本県出身の行定勲監督を迎え、同じく熊本県出身で俳優の高良健吾さんがゲスト出演。初日は高良さん主演の映画とドラマ3本を上映。幕あいにステージで行定監督と映画談議に花を咲かせ、観客からの質問にも丁寧に答えていました。

日が落ちると菊池高校前の能場に場所を移し、「菊池の夜会」がスタート。山鹿灯籠踊りや少女舞踏団「花童」などの伝統芸能で来場者を出迎えた後、行定監督と高良さんらゲストが登場。映画談議に引き続き行われたミニライブでは、高良さんがマイクを手に熱唱するファンサービスも。アンコールの声が響き渡り、会場は熱気に包まれました。通りには多くの露店が並び、絶品グルメでおもてなし。来場者は口をほおばらせながら夜会を満喫していました。

午後11時からは隈府の飲食店で「ミッドナイト～真夜中の映画祭～」が開かれました。深夜にもかかわらず店内は満員御礼の大盛況。ショートムービーやプロモーションムービーを楽しんだ後は、行定監督と映画評論家らゲストの対談が続きました。普段は聞けない撮影の裏話や面白いエピソードが飛び出すなど、朝方まで笑い声が響きました。

2日目は熊本県出身の坂本あゆみ監督（「FORMA」ベルリン国際映画祭批評家連盟賞受賞）、俳優で本市在住のイ・ギョンジュンさん（韓国映画「チスル」2012サンダス映画祭ワールドシネマグランプリ受賞作品出演）など多彩なゲストを迎えて3本の映画を上映。世界的に評価の高い作品を見ようと大勢の観客が来場しました。観賞後は、監督や俳優らとの握手会や記念撮影などで交流するなど、映画祭ならではの交流を楽しみました。

10TH KIKUCHI INTERNATIONAL FILM FESTIVAL

1. 観客と一緒に記念撮影　2. 真夜中の映画祭　3. 開場前の行列　4. ドラマの挿入歌を熱唱する歌手の柴田隆浩さん　5.8. 映画祭を熱く語る行定監督。ファンサービスも怠らない　6. 観客の質問に優しく答える高良さん　7.16.17 熊本市で映画祭をPR　9.FORMAの坂本監督㊨と主演の梅野渚さん　10.13.14.15. 満員御礼で盛り上がる菊池の夜会　11. 高良さんへのメッセージボード　12. チスルの舞台あいさつ。左からオ・ミヨル監督、イ・ギョンジュンさん、ソン・ミンチョルさん　18. ドラマの主題歌を熱唱する塩ノ谷早耶香さん。透き通るような美声で観客を魅了した

「外にいるから、やんなきゃいけないことがあるんです」

高良健吾 KORA KENGO

Profile
こうら・けんご
昭和62年11月12日生まれ。熊本市出身。テレビドラマ「ごくせん（H17）」でデビュー。NHK連続テレビ小説『おひさま（H23）』出演。「横道世之介（H25）」で第56回ブルーリボン賞主演男優賞受賞。主な出演作品：「M」「おにいちゃんのハナビ」。26歳。

熊本県出身の行定監督と高良さんに、菊池国際交流映画祭にかける思いを聞きました。

——今回の映画祭にはどのような思いで参加しましたか。

高良　行定さんが映画祭をやるから出ないかと誘ってくれたんです。以前から地元に恩返しできたらと思っていたので、とてもうれしかったです。熊本にこんな映画祭があることは知りませんでした。行定さんがアドバイザーに入っているのは心強いですね。

行定　菊池の映画祭は今回で10回目ですが、1回目の気持ちでやっています。スタッフは3日ぐらい徹夜で頑張っています。お客さんも大入りで、映画祭が生まれ変わったと感じています。高良くんが来てくれて本当に良かった。地元に貢献したいと律儀に考えてくれていて、その姿勢からは学ぶところも多く、力をもらいました。

——参加してみていかがでしたか。

高良　最初はお客さんが来てくれるか心配でしたが、朝早くからたくさんの人たちが並んでくれてとてもうれしかったです。映画祭は観客と交流できるのがいいですね。僕自身、参加することは勉強になりますし、地元熊本で、しかも菊池というすてきな場所で楽しんでいます。

行定　映画を救いたいという思いもあるんです。シネコンみたいな大きな映画館で流れるものだけじゃなく、あまり知られていないけど良い映画を後押ししたい。昔の映画でもいいんです。10年前に見ても今日見ても、泣けるものは泣けるんです。映画祭は、そんな映画を直接お客さんにアピールできる貴重な機会。ずっと続けていきたいです。

高良　子どもたちにも親しまれる映画祭はいいですね。僕は中学生のときに行定監督の作品を見て映画に関心を持ちました。今日も小さい子どもや高校生が大勢来てくれています。やっぱり映画っていいなと思いました。

行定　菊池には映画館がないから、そんな場所で映画祭をやる意味もあると思います。ここにいる子どもたちが「私も高良くんと同じ舞台に立ってみたい」と夢を持ってくれるかもしれません。私たちも熊本で夢を持ちました。だから故郷への恩返しの思いもあるんです。そういう気持ちをつなげていくのも大事な役割だと感じています。

高良　今は東京に住んでいますが、県外に出て熊本の良さを感じています。反面、弱いところも知りました。外にいるから分かるところもあるし、やんなきゃいけないことがあると思うんです。ずっと熊本にいるのもすてきなこと。その人たちにしかできないこともあるから、お互いが力を合わせればもっとすごいことができるんじゃないかと思います。

——菊池でやってみたいことはありますか。

高良　菊池渓谷に行ってみたいです。水が本当にきれいですよね。パンフレットに載っている「いちいがし（泗水町吉富）」も見てみたいです。

行定　すごくいいところ。温泉も美肌の湯で気持ちいい。

高良　菊池の温泉いいですよね。温泉で有名な湯布院の映画祭は、映画関係者にも人気があります。菊池の映画祭もそうなる可能性があると思っています。

行定　熊本で映画を撮りたいねとよく話しているんですよ。菊池は食べ物がうまいし自然がいっぱい。テレビでもずっと言い続けてきました。菊池にはもてなしの力があります。そういうところでやる映画祭は必ず成功しますよ。

高良　ぜひ熊本で行定さんと映画を撮りたいです。せっかく熊本で撮るんだったら熊本弁でやりたいですね。

——ファンと市民にメッセージをお願いします。

高良　ずっと地元で映画祭に出たいと思っていたので、参加できてすごくうれしかったです。いつか本当に熊本で作品をつくれたらと思っています。みんなで声に出していればきっと実現すると思うので、ぜひ応援してください。菊池の映画祭が年々進化して、もっともっと多くの人に広がっていけばいいですね。

行定　菊池の映画祭はもっと進化すると思います。観客と共に成長していく映画祭を目指していますので、来年もぜひ足を運んでください。映画祭をつくるのは私たちではなく観客なんです。僕にとっては観客の皆さんが役者。映画を見ている皆さんの表情やリアクションを見ているんです。来年はもっと面白い映画祭にしますので、応援よろしくお願いします。

——ありがとうございました。

「菊池にはもてなしの力がある」

行定勲 YUKISADA ISAO

Profile
ゆきさだ・いさお
昭和43年8月3日生まれ。熊本市出身。日本アカデミー最優秀監督賞、ベルリン国際映画祭批評家連盟賞、釜山国際映画祭国際批評家連盟賞などを受賞。主な監督作品：「GO」「世界の中心で、愛をさけぶ」「北の零年」「春の雪」「円卓こっこ、ひと夏のイマジン」。46歳。

17th KIKUCHI INTERNATIONAL FILM FESTIVAL